



備前神靈
感得奇聞

新田義統功臣録初輯卷之三

禪可摘醫索黃金話

孝女賣身救父親話

且説惠仲も想ひよる次如斯大勢も提携行ハ是何等の縁由も
 那里へ往を志すに憫然としくはしる忽禪可も旅館に至りつぎぬ
 耐振へ来る徒高やうも声を揚ぐまらけ相公の命もよりて賊を捉来
 是れと叫りぬ裡より一漢ふもち出這裡へくぐりし驛館の街庭へ引
 へどし一盞茶時ありし一個の度へ縁くじりてありし生則客堂中
 央に座すべ徒僕在りて遊列も惠仲ハ是甚くやうんと頭を擧ぐ
 これを着し何ぞ想人脈骨浮染しける婦人の丈夫禪可ぢれば
 甚異しと思ふもやうく禪可の面前にひき出する時禪可大喝

新田
3

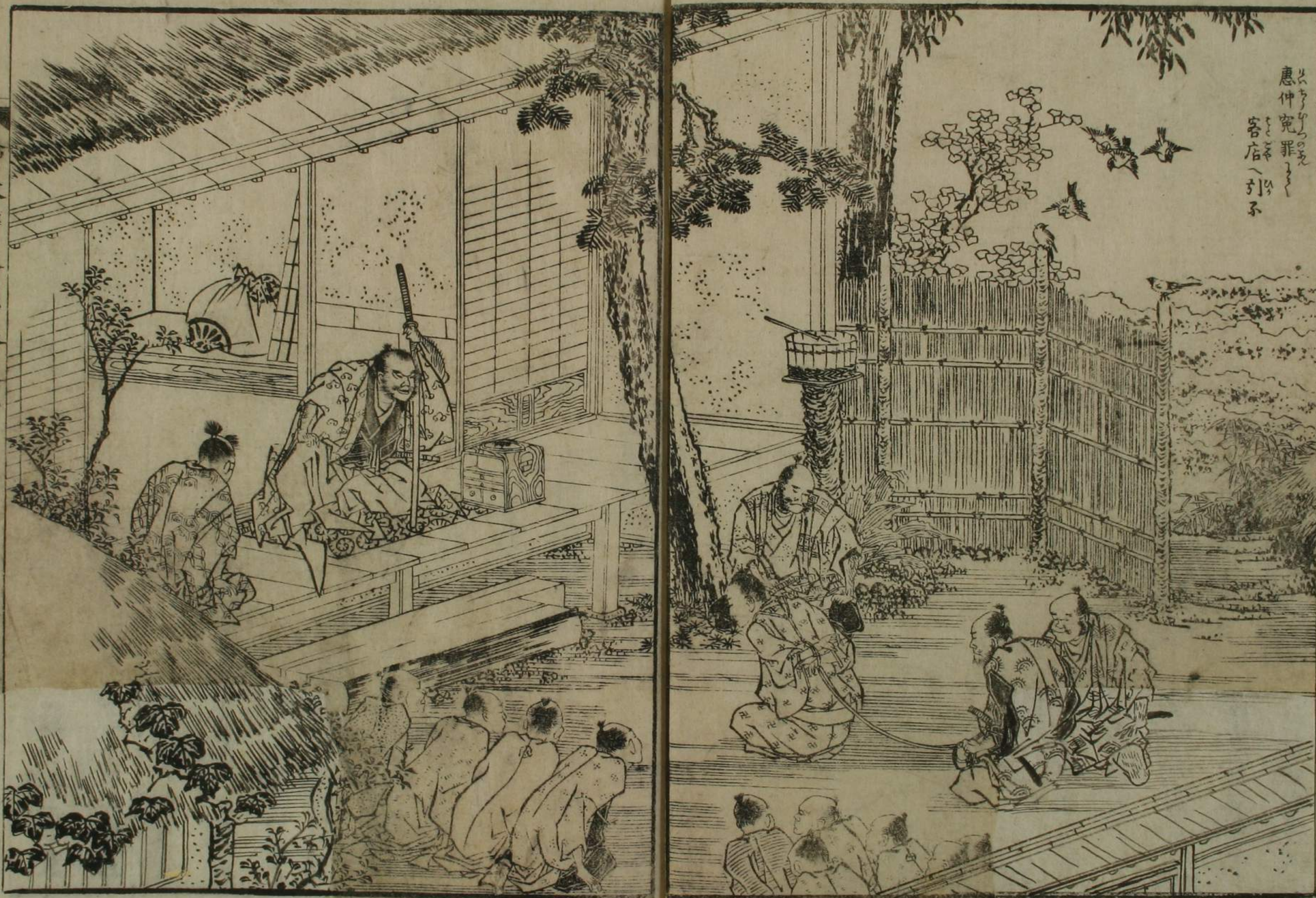


會入... 卷之三

一吉くく云らく汝醫賊もくも昨夜此旅館も忍く吾行李を盗ま
 るが其罪殺すも尚飽さういもいも昨宵汝が茶をりて酒家妻の
 病三四分を愈しきる徳もや幾方う此罪を免さんか昨日の賊事
 従突招脱し奪得る行李を返し與うさし若少くも諱めらば
 猛り斬らんと腰刀の鞘尾空さはほしく罵られへ惠仲夢中も知ら
 ざる宥罪を宣まらるは愕然と少刺言おりの胸裡も想う若
 此宥罪を轉脱するは非命も死し汚名を千載も傳へんと遺
 恨なれと意を勵し云相公何の證ありし小人を賊と宣ふぞ少人
 不肖ありとも道を通せざる賊はさうも得るとは故に家も
 物の餘財なし是御黨の們知所ありと言未早なるも禪可吃
 云汝口のありははらるる檀小巧言し拒許とも何の故なる

此旅館より汝家血滴をばひきりて是昨夜酒家汝も其
 傷の故もあらずや這般明らある證據何ぞの譬獲子も辨何を
 も豈能詞抵辨しを得へんや怒氣一瀉し罵猛鬼彭風
 發今ましく志をこし渾身を搜着るは必す創痕あふ今といはれ
 の従僕一存ももかろく衣裳を脱し着る一着も更も一點の傷
 痕ありしちま禪可按も齟齬し甚無腹竅し將口を閉
 んとも時中傍に在る僥を進出せしらく小く曾く聞あるあり
 大賊の必部賊を役しその盜課を會するし今言這賊もわき
 も此種類なるも不如強鞠問の必部下を肯招すし老那何を
 此京あし多る禪可これを耳し喜懐し云我兒好くも致意
 了し猛令を下し既もその準備をあき折し這邑の百姓も惠仲が

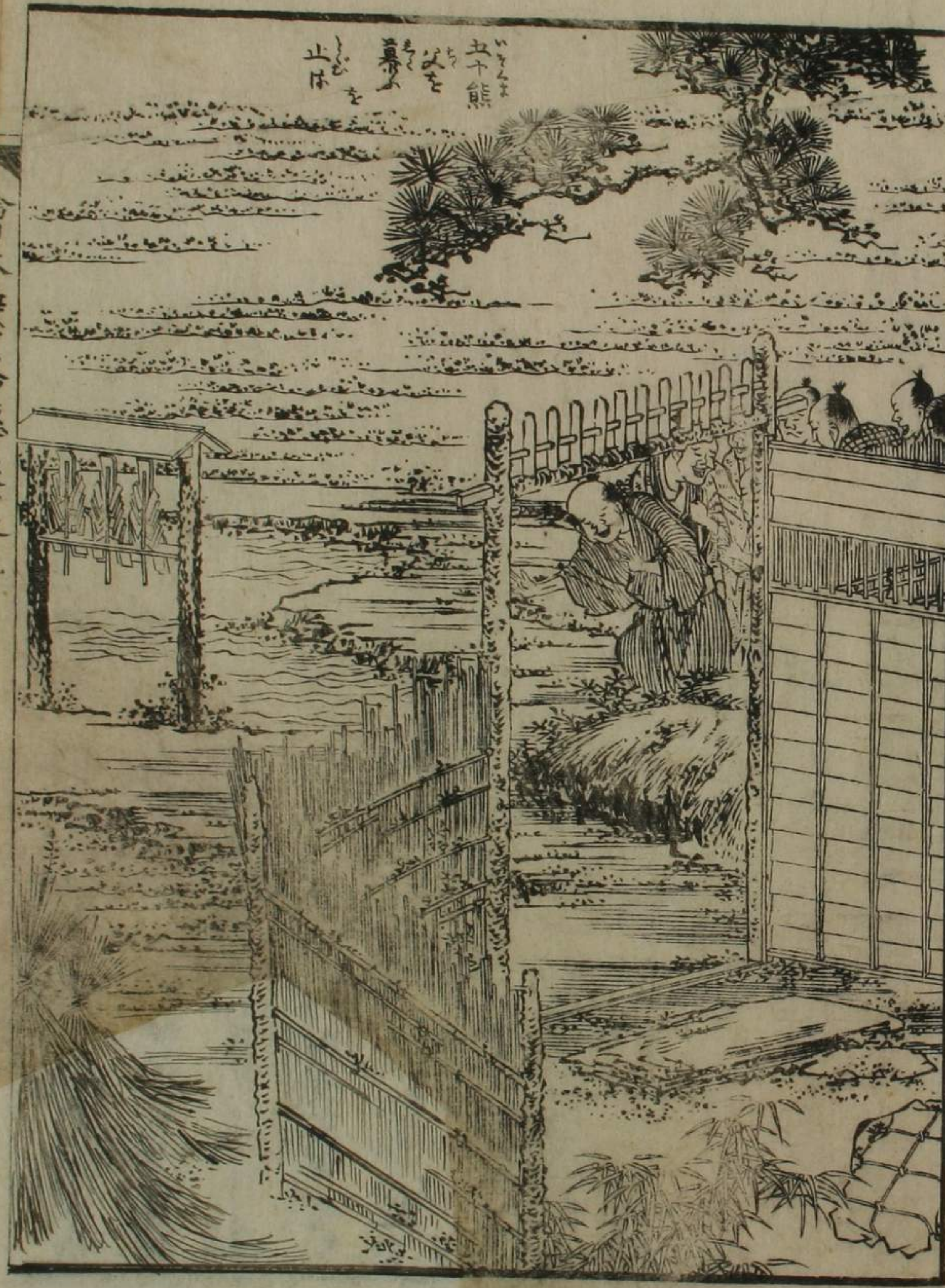
惠仲究罪
客店へ引不



新本段王流義卷之三

是異むへきりぬあふもや今此状をりく官府に訴ふハ譬言賊を
さすも堂社支黨の罪を免ふてを得ん然れども彼等
妻の病を治しぬ徳も有るも且汝の言も乖がくれハ今我分
の便宜了をりく公小訴る事ハ歌へきやまの我盗まじし行李の裏
小入置る五十塊の金を惜み之し是我路費はし此金なき時
師小至るてあふも至る事ハ公より我を罪しぬ然る時ハ申て
を得て此状を訴ふやまは必罪を犯すべしとて之をばり村老の
まらぬ惠仲をぞ母饒多ひふ失ひ多る路費も如何れし世ふ
ふ少刺候せり人と惠仲を質しとてまらぬ苗田村老の們ハ一般
を去る惠仲が家母赴きり却説這裡ハ昨日五十熊徳事
此旅行を送りて只今回まり一進戸内入り着る母と妹とは

臥居りちるハハハも何等の事も斯ハ嘆くぞと憔悴二人を披
起しその縁由を問ふ二人ハ五十熊を着り少く力を得候を拂
くまらぬ今朝も郡里より數多のく来り老爺を捉去り
父ハ五十熊愕然とし怒氣を吐し一言の言ふ猛才を待し走
出んとす母これを着りて又母急き急母拙住り云らぬ我兒のよ
程もや今郡里を的しと往んぬすを譬言的りも老爺已
擒となり多る慮申行り胡亂なるてを做さ却り老爺の者り
害を添んと諫しぬ五十熊實もと想ひられ往りて躊躇し
思量するも母只着村老の們一般母慌忙く入来れば母星を迎へ
内母伴ひつれば彼く母子母對ひ云らぬ惠仲寛罪をうけ旅
泊の宿人の爲母捉らぬ状をり公母訴へらぬ事を平生の好意何れハ



我門力を尽して其罪をよびらるるも五十兩の金を貸し得られ
 を放ち飯をすててを饒しと名し事をもを説話まへ母子にじりて惠仲
 の去向を識り世に心を安んじらるる五十兩の金を生ませり又
 我々の心を悩まそとて是を別計ゆくとす村老の辛苦を
 謝し金の跡より整へよかせん尚世上のてとて人再頼ちなり金を
 整へるまへ少刻時を移すべしとて飯を喰ひてを後
 へ後母子二人打聚りて多方高議すても家再一財の時へお
 されハ金を得べき門路ありと嘆息しりる母ハあまりのてとて涙を
 拂て云我門いゝあれハ斯まて薄命也とて此危難をむらうるを今
 此嘆を著んより則索死するてを増さるちと嘆く咽くと哭倒り且ハ
 負兒を扶起しと云媽々あまり痛哭するハ奴家一の計策

有りて是をわけても老翁を救ひ得る事易かじ母忙問阿女
 何等の計のある快と説く母ハ意を易かじしやハ負兒云是別計
 計ありて奴家の才を賣りて我兩の金を整へ尚足らざるをハ
 家産をかこぎけハ老翁の罪を貸ひしき金を得ん母これをば
 く一言の應答たもあて伏沈く嘆きりる漸く其面を擧げ云
 阿女如此孝心ありて老翁の危難を救へる事其甚感するも餘
 ありとて心も吾家の上祖を是于城なるそのをいふ今斯負苦
 小迫王父の爲といひあて宣阿女を烟花に沈め家名を恥じむ
 小忍んや後日老公の家再飯まひ阿女の身を官ま何の辞とて
 涙を流し涙を拭きんて泣沈むを兄弟も俱々昏倒し嘆きりる
 目もあてらぬ光景なりこの時五十懸涙を拂ひ母を扶脊望紙

麻沙あさくくいい小人こじん兄あにの身みもも妹いもうともも不如いかにをを甲か非ひ文ぶんああくくおお母ははすすららららど
 事こと急いそぢぢれれハハ外ほか母はは索もとへへきき術わざはは法ほう嘆なげハハナナリリトトワワリリトト今いま妹いもうとガガ命いのちをを賣う
 するするももハハ父ちちをを助たすむむトト得え難がたななれれハハ心こころひひくく此こゝをを守まもりりししめめハハ未ま世よトト云い
 ぶぶ日ひ月げつのの光ひかり尚なほ明あきののああれれハハ皇みかど天てん妹いもうとガガ孝かう心しんをを感かん應おうありりトト猛まう犬けんのの
 患うれをを遊あそぶぶトト近ちかききもも喜よろこびびありりぬぬトト心こころほほくく慮おぼええくく心こころ神かみをを苦くるししめめ
 りりああくく勸すすめめハハ父ちち兄あにもも俱ともふふああぐぐささああくく云いハハ各おの命いのちありりてて百ひゃく折しやく子し孫そん
 ををううくくもも正ただ道みち過あやせせのの運えん塞さいありり常とこ言いハハ七しち倒たふ八はち起たとと云いハハ何なにのの
 若わか佛ぶつ神かみのの覆おほ庇びよよハハ再またびび親おや子こ完まる聚あつ日ひああるるトト兄あに身み母ははのの嘆なげ
 ををううくく折しやくりりトト莊さう輔ほ惠ゑ仲ちゆうのの危あや難なんもも遭あはあししををううくく遊あそぶぶトト其そののの安やす
 否いなをを分わかんんトト母はは未ま世よトト云いハハ母はは子こ哭なかかるる光ひかり景けいをを着きくく甚いそ設しやくすすトト
 慌わう忙ぼう裡らハハ入いりりトトをを慰なぐさめめ這こ回わいのの危あや難なんのの縁えん故こををううくくハハ母はは子こ一いち般ぱんノノ首くび

屏びんをを細こまみみ説せつくく后ご且かつ又またガガ罪つとをを背かへへへガガ爲なるるハハ自みづか見みをを洞どう花かもも賣うへへトト云い
 のの言ことをを述のぶぶハハ莊さう輔ほ深ふかくく其その孝かう心しんをを感かんじじ想おもひひくく如ごと此こゝ孝かう子しをを侍しやくにに相あ當あららししめめトト
 花はなもも沈しづみみトトももハハ母はは心こころハハ也なりトト云いハハ這こ回わいををりりトト吾わが女むすめ兒このの傍そばもも置あまま朝あさ夕ゆふ陪まをを右みぎ
 ぶぶししめめハハ友とも友ともトト云いハハ我わが兒このの身みハハ福ふくありりトト云いハハ意いをを定さだめめらられれハハ母はは子こ
 むむららひひトト云いハハ賢けん女にょのの孝かう心しん感かんずずるるトト云いハハ餘あまりりトト云いハハ豈あららかかずずトト云いハハ孝かう子しをを烟えん花かももほほすすトト
 堪たへへずずトト云いハハ故ゆゑもも我わが其その金かねをを賣うへへトト云いハハ此こゝ兒こをを我わが癡ち女にょにに陪ませせトト云いハハああままりりトト云いハハ母はは子こ
 今いま我わが兒こ此こゝ兒このの賢けんややハハ母はは化かれれトト云いハハ自みづからら善ぜんふふトト云いハハ其そののの見み
 而しかをを失うははれれトト云いハハ不ふ知し此こゝ母はは子このの意いハハんん背かへりりトト云いハハ母はは子こ是これをを耳みみ
 感かん佩はいトト云いハハ云いハハ莊さう老らう爺や今いま如ごと斯ごとトト云いハハ慈じををさされれトト云いハハ吾わが門かどのの福ふく何なにぞぞ
 是これもも子こへへきき親おや子こハハ命いのち全ぜんすすトト云いハハ得えるるトト云いハハ何なに等らうのの命いのちををももつつトト云いハハ母はは子こ
 背かへりりトト云いハハ今いま愛あいののたたがが母はは陪ますすトト云いハハ却かへりりトト云いハハ這こ回わいのの

福ありと深く恩を謝し、此時莊輔從僕も分付く家母、五
十兩の金をりし、し也足を母下、近ふまへ母子三人、天丹喜び、地の悦
ひ雀躍し、謝し、ちれば莊輔云、結る事を暫へく、后負見を告え
み送り、多く物事をさぐり、飯り、ちりかじらば、母子の急ぎ、村老は
此金を、通ふんとす、如か恰好、村老の們、来り、多く母も、出て、人をひ
く裡、申請し、云未得、好多入り、莊輔、好意のほどを、語彼金を出
し、我夫の、寛罪を、分疏し、多く人、只言、申頼、多く人、止を、接て
負見が、孝心、莊輔が、好意を、感じ、以て、彼所、小往、惠仲、大哥を、誘
引、来るべし、五十、態を、伴ひ、禪可が、旅籠、申至、云物、のく、罪成
貫、る金を、持来、申了、て、則彼、金を、呈し、惠仲を、以ぎ、おえ、て、を
索、られ、禪可、執拘、ち、惠仲を、免し、飯じ、む斯、惠仲、村老の

力を、尽し、央告、り、多く、危き、難を、免し、伴り、家母、飯は、祝子
相、喜ぐ、く、限り、あく、死る、人の、甦生、想を、做人、を、厚く、饗し、感佩
して、飯り、ちり、這時、妻五、百機、惠仲、申對、女兒、負見、才を、賣り、
父を、救へ、のひ、莊輔、の、感愛、子を、人も、罪を、賞り、金を、送り、
負見を、とり、得べき、物を、做る、を、細申、説り、且、惠仲、感法、を、止り、
うの、女兒が、孝心、莊輔が、仁惠の、程を、感録し、熟く、這回、の凶、禍を、想は、
昔、年靈、狐の、本の、的當、し、れば、女兒を、莊輔が、婢と、も、是後、榮を、
得、神の、冥助、あり、めと、感悟、し、れば、ち、靈狐、窟、詣神、恩を、謝し、
り、ち、ち、其日、の、暮り、れば、翌日、かなり、女兒を、伴ひ、莊輔、家母
赴、き、這回、の恩、を、厚謝し、物の、く、女兒を、伴ひ、泰然、と、永く、令
愛、し、陪り、右の、幹事、申召、はり、と、顔の、へく、遠く、負見、を、止

莊痛が婢きくじしも辞しく家母を餌りたり

主計花下戯美人話

悪醫詞女鴈癡漢話

話説新田の老臣井彈正の男兒井求馬と叫做的あり生得て其性温厚しく容貌も且清らなれ君父ともよこれを愛し後榮を慮りく十二歳の時より京師よりげせ只顧文武の道を學せりく既而五年を修りく粗其道も孰しり其應也故御所人とする尚時猛太口の山變を修りく大母影もき天母叫地も男く罷さるるが漸く公を靜めく想らく君父の讒言も共つて天を載くも之は早く東國の師り徳壽君を推薦旧好の們を集め仇家を殺すの討儀を運らさるやと暴は旅行を思ふもつりれも近年打續

ひる接袈も書糧も送られへ路費もあめき時へあくる何せを想ひ願ひるがまも梶井の宮の御うちも物部主計といふものなり是則求馬も外家の從身はしり世く富ふものなるも且同等の困もあれこれ路費の需索をくも此主計生質を吝嗇する事なく右もく一錢も借與へざるは只得り則此家も投托ありく公あつても徒も日月を送りり不在話下再説洛陽山科の邊も伊藤董平と叫做豪民あり近年の乱も天下の豪士悉く家産を失つてくも此董平極めく伶俐あるものなるもよも變革と計りこれも應どられは此乱り世も獨全しを得る累世の農桑をかき家富榮り妻も江州の處士佐木氏の女も夫婦十分恩愛あれも年記四十も及ぶも只一子もあつり久明暮これを惜まら



清水寺の御堂



清水寺
龍
一子

清水寺の御堂

と夫婦相議しし、弥生を誘引清水、且謂ぐ圓通閣より香を燒
 拜を倣ひ、願くハ大慈哀愍、納受すし、く良婚を授け、あへ
 親子二人丹誠をらし、少刻祈念、終る回廊を轉舞、臺より出、欄干
 倚靠、四方の風色を眺望、且折しも三春の天長、閑はく地主の櫻爛
 漫、咲乱、香氣芬々、と薰花影の飛泉、映る光景、ハ又、あき勝景
 あり、いぬ元、私より相續、く天下、蜂乱、く世の中、静あふ、され、人
 乃、流ハ花、み、う、ろ、ふ、その、か、都下の貴賤、群集、く、花の、り、く、酒、晏
 を、く、け、詩を賦歌を吟む、あま、ハ、時興、小唱、あり、く、皂白紅緑、ハ、遊
 歡を倣、る、光景、ハ、少刻、辭を、ぞ、散、り、り、折、く、面、前、より、二人の、小、年、一
 僕を従へ、来る、あり、其、模様、念、生、く、く、一、人、ハ、年、紀、廿、四、ハ、不、満、と、着、く
 き、る、が、眉、清、く、眼、秀、身、軀、不、肥、瘦、容、貌、双、全、く、風、流、の、好、男、兒、なり、又

一人ハ、齡、弱、冠、を、ま、く、過、り、く、お、ろ、く、眉、濃、眼、光、鬚、細、密、し、く、顔、色
 皂、く、身、材、矮、き、醜、漢、子、なり、各、頭、ハ、一、頂、の、羅、蓋、を、載、き、身、み、め、一
 領、の、外、套、ハ、一、具、の、袴、ハ、を、穿、腰、間、ハ、兩、口、の、佩、刀、を、帶、二、ハ、一、般、の、打
 扮、なり、く、く、く、醜、漢、子、の、衣、裳、ハ、甚、壯、麗、あ、く、く、品、ハ、大、ハ、野、あり、這、們
 是、別、ハ、ハ、あ、く、く、も、求、馬、主、計、の、二、人、ハ、し、く、醜、漢、子、ハ、則、主、計、なり、求、馬、を
 吾、宿、志、の、遠、ざ、れ、ハ、さ、く、ハ、花、を、着、る、心、あ、く、保、も、主、計、ハ、只、顧、進、む、ハ、
 い、あ、く、が、く、今日、這、地、ハ、い、ざ、ふ、り、れ、ま、り、り、の、兼、く、觀、世、春、を、信、す、と、い
 乃、ハ、圓、通、閣、ハ、上、り、廷、佛、の、冥、助、を、祈、答、を、下、り、く、花、の、辺、を、徘徊、く、
 山、色、の、風、景、を、眺、く、あり、る、ハ、弥、生、何、心、あ、く、橋、の、乃、ハ、大、く、短、冊、の、つ、き
 て、あ、く、み、み、を、か、け、く、其、歌、ハ、も、を、吟、く、く、し、を、主、計、一、日、く、天、晴、佳
 人、あ、く、相、思、ひ、り、れ、ハ、晴、を、さ、く、く、着、一、着、ハ、只、ハ、正、臉、ハ、ハ、月、の、嬌、兒、ハ、似



繪本外紀卷之三

一四

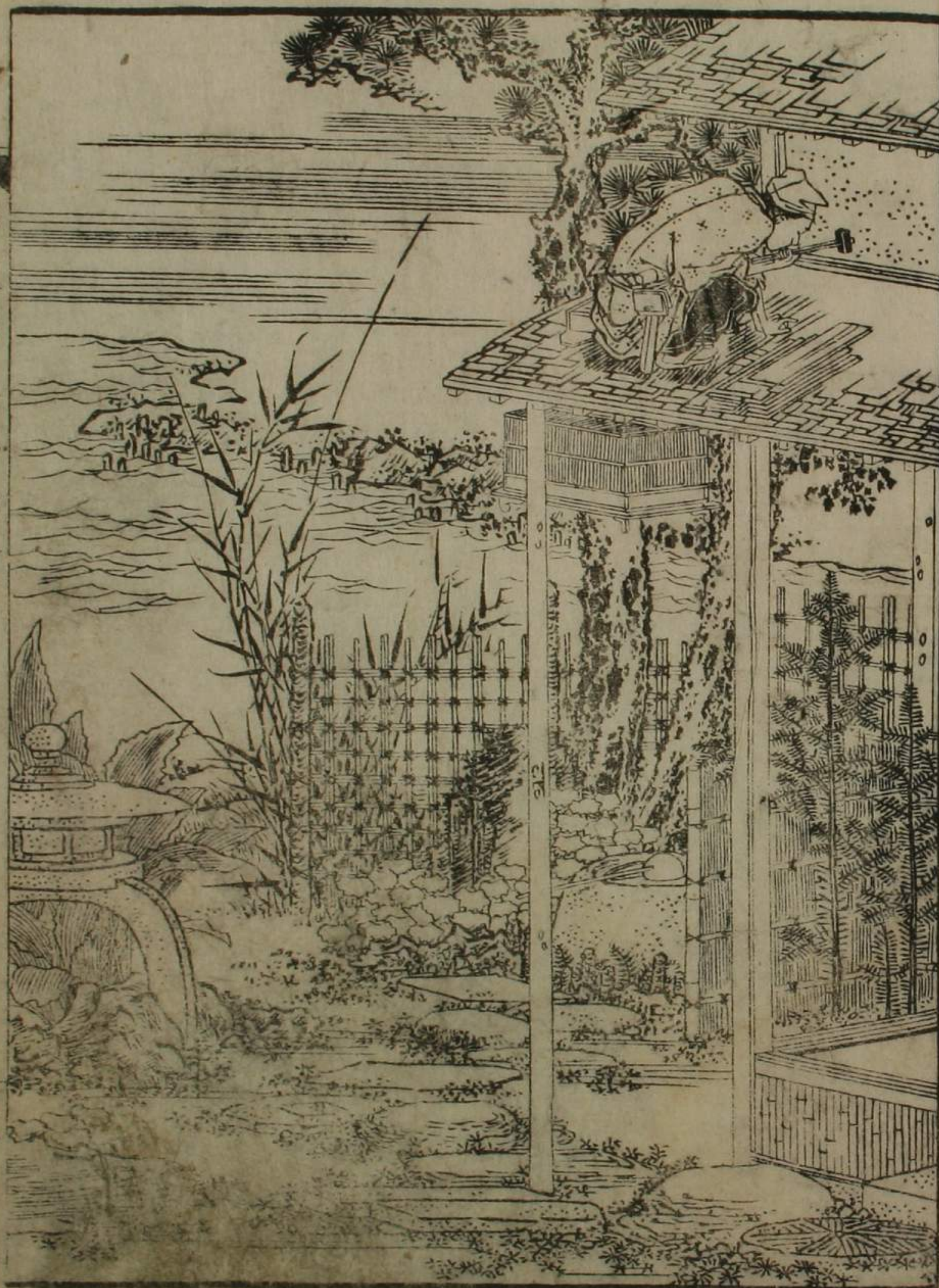


花見の
庭
遊生
求道と
こころ

繪本外紀卷之三

眉の初春の嫩柳のまじく眼中風月の情を合する遊ひつゝ羅漢も思
 情さうりなりまの原素好色するま斗猛魂魄を天外に飛ぶ一蕩々として心
 解つ不うこしく女子春心を動かし頻に救正内外襟袂を流し眼寄を貪着居
 這時亦馬の花の下に詩賦を閑吟しう有るも不図後を轉顧が恰も
 此に生う這方を顧るも相望む二人一對の美貌見やれば相見がらみ満
 面生春色觀望する眼裡の無量の情をぞたのしみたり主計も孫生
 があつてを貪着のつゝの必我を看ると想ひこみけるは正は是已が身を亡
 たりべき一件を惹出せる端とぞあはれけり此時主計は佳人我よ心何りと
 思ひまのあはれはあどく出奔露醜も筋ふべきまもちも近く進奇て
 孫生も袂を拉住肉麻調戯く云酒家大娘と話流べき事あり這裡は
 まありと人といふも孫生もみゆるき怖ま顔色を紅く急み身を流して

玄人とするを尚綱繆けし這消魂種人をしと想ひも純おしとまも
 強く摺拉人とも董平これを着く其無礼を怒り大罵をぶじりやが
 主計もころへぬそのまの既み闘争も及んとす求馬傍にありと足を
 着慌忙く双方を制し董平み對しとらく我友醉小乗じく足下を
 令愛するををまもみ只是酒肆の婢なりと想ひ違ひく戯を傲し
 多の毎禮を致しり願うる罪を免れ人と陪小心中央にあられ董平の
 素より喜を好むがれ今求馬がけづるを幸ゆりて女兒を領りて東
 小寺門の外に去りまもま斗の尚品依りて喜して孫生が方を目送て
 有りける日や西山に傾るを側あれば求馬これを催徴し私宅へてを
 帰りりり斯く主計は此日をたのめしと孫生が喜こすことう孫生
 願想ひも迫り連日家小ありと万事を瘠し痴人のごとくなりける



主計
 子
 文媒
 頼む

了く頻り迷恋のりしをひ早く一封の艶簡を送り赤心を知しめ
 り彼も喜ひ相公の病も愈へ是両全の討議ありさや主斗大正兵
 ひく云先生甚神通ありと斯のたゞき車をも能明らるる識多へ
 不ぞ今我相ひ死すべきを先生に神通ありと懸生くを得るは
 正是地皇なり尚此上哀愍納受く火速に所願を遂ぐぬるへ
 神を祈るごとく拜伏してそ託あるる庵呵く打笑くささるり
 板の地のれを御多しぞ此車きめめと整揚さわい小く隣媪を
 董平と親しむはこを託するは囊中の物を得るもりも尚是切
 重く然りく父も從媪素貪欲の徒あれは必多く辛若錢を索
 むし相公此喜いふはさやと斗云賤賈は是身の自由を安
 せん為の物あるはかるとも用はる何ぞ惜の道理あると多匣の裡

入り十塊の金をとり知一暴一討の艶簡を写るを添く予
 且遊興くこの金甚些少なりと之も車を託むの驗も其老媪
 贈すわくするなりと又別日五塊の金を出し是は先生より病
 を治しきる謝するあり車の成得る後其の辛若錢を謝すは
 まかくは先生只ま計くまへとつやめ了菴微笑く謝く云相公
 斯まで好意を御多る上は小く力をそく從媪を説くさや吉耗を
 免ゆるせん艶簡と金とを懐し辞く家まで歸りり都て此一
 軍の原来た菴輔間媒妁を業とすまはるは媒妁の丁をりて董平
 が家も往来する近日常家の噂をひりり前日清水湯の折り
 漢子の五女大姫も戯るる人老翁の怒り多ひく既再車もたりぬ
 へきを傍なる美少年出く静くりき其行状甚賢りけは老翁も

大姫もさうく愛多しく便宜を索め女婿とほしきまきと宣ひやめて執つ
その模様を按多し正しく主計と求馬なりと想へる處に主計が説
はみ符合しこれの猛奸計をりめけやう十五塊の金を騙し尚多し此銀
賤を貪らんと獨點頭く彼艶簡を懐み一生平れしく董平のりとも
四方山の嘶しく私に隙を窺ひ孫生をあやぐえらく前日清水く大
姐の難を接へる少年を忘る多しひるう孫生くいぬ家何ぞ恩人をす
べき然りととも其姓名住所をも知らざまば今日まとも徳を報ひ
足徳もすきまなきのこ了庵く云少人子の少年を識王近日彼
逃しむ彼人家小師く後只顧大姫のしを想ひ惱み怒り人をなま
まれ母をささよ少人はしく此一封を送まると求馬が名をささるを
主計が通ある艶簡を呈しこれ孫生へ是を傷ぐとの知れまきまきと

慕え人の艶簡とみく喜悅のし封をむき執着をささるまきと
回書を宛め通ふゆへ了庵微笑くこれを接しを辭し再び
主計が方よ封き返書をいつせは主計大姫喜ひ只是優曇云華花
さく春よ遭ひ地くたちまち封を披く劇多し浅くぬ想を寫し
はしく天よ喜ひ地よ欽人く繰返々々着く深く了庵を附し幾計
の礼物をさへちり斯く后了庵これ因くさまくの奸計をささるけ
くれ金浪を貪りおのまはさり書簡の往來度重くは遂に董平
夫婦これを知り深く了庵を恨み一日其まきるを符これを責るゆへ
足下何等の人をりし我暗を忍びく女兒が私通の始末をば做らひつ
る兼く良婿ある仲人のしを頼まわすくやさる母く打恨て茶
はさへ了庵大姫取し少刺言あくるありりるが兼く董平が求馬を

忠はしを知らずりしは傷く云らく今何を色やさん大姫の慕少ひ
 する人の是別人はあふも前日清き湯のかりを礼を做つる者をさへ
 少年なりは従え来良家の男兒たすも家亡びく今人れり
 寄食しありぬ志を大姫いある事も従を迷思多ひ命もか
 頼多るよあがくむなりずも斯はたぬと拒諱は董平の命もか
 あり有りも我従少年の人品を如假令いま貧しといやも従素武士
 あり且彼がきき女あまは我女塔もあまも恥をくも女思もささう
 迷戀するやまへ足下明らしく嫁始をばく多と託は了庵いあむき
 言あくらけひく飯さまも原來是偽をまく標するはあまはた
 多ひく大は園之白皂紅緑は沈思も多も今施すべき術盡るは且
 奸計をまくけ直は主計なりは起き今骨相公を従人と達とあむき

へきか計り得く這般その號を紛し置はれは少く従所も思ひも人夫ふ
 能く下僕を多計の賂を做置くは偽く数塊の金を鶴取又孫生
 が方へ今骨従人の思ひまきやれは如此をばし多へく已是
 密母家財を収殮其方もあく逃たりぬ常言みは人可瞞天不可
 騙と皇天の羅網はうて悪人を脱漏もあき是此了庵豈社始
 終死事を保んや可憐主計は彼毒計は陥りまをあむき心も空
 母なり夜も乗れ山科なる董平が家も来りてるは実も富は家と
 く棟門高く家居継々く奴僕も多くえ思入べきやあく躊躇て
 園家の病を立起ひり孫生は今骨想あ人の思多る母と心喜ひを
 やり母衣服の侍女も吟付く庭の柴門微くしめく待處は二更過は
 左側柴折戸を微中の子音耗声聞やるは俟侘さるははの候令たつ侍



女々ちぢく伴い入燭を乗くこれを入るるこい前日清水にて戯生
 たる醜漢子ぢれハ大々狂まき猛力を轉一裡一々ぢれを流法
 バ称生恠しおぐその隙より定規ひる愕然しと云らくこれ奴
 家莫少く人ハありしものをすハとも信なる天麻糸の奴衆も一裡
 あり圍門の肩を固め戦栗てし潜る居る這時主計ハ庭前中站
 既其時を至せも其の應門もありさるハ大々付宅く戸は倚り裡は
 光景を空想し何事よと云ら母説話する声耳ゆり恠し疑ひる
 の猛悪精しと想しと婦我より前ハ私妻あり今宵まは其体
 之のなれ人悪き女の行状哉怒氣心上より起之且罵く云婦何等
 の恨あり我を斯のふと騙さるる戸を荒らる叩き折る持
 時夜行僕これを待つ愕然しと想らく深夜大娘の圍門開しと云

是偷兒かめめと高やと叫んくまやと盗賊の入るぞと會やと
 と呼よりり是ハ蓋宅の門登り記出くやをら偷兒逃すとお各不
 棍千切本を推りへて此處へ欠付見よ一個の漢子其を固り圍門を
 叩きありり是ハ何を饒怒まききたるも四方よりこれをとり龍終
 高家小系と綁りる高村此頃洛中洛外も盗賊多く諸人怒不
 由に將軍家より巡捕吏を所しむむけもひさる母恰どのの巡捕吏
 董平が門前を過るる家裡甚開かりけは捕吏裡に入る素因を
 問へる志しれりを應答し是ハ有義を不問もち主計を捉
 へて去り鳴呼是薄命の系此痴漢己が淫慾よりけりといふ
 了庵の鶴さる斯縲綆の恥しを市朝ふさしする方見くと
 ち可憐しとあはむや主計甚の刑さる達下回は解かざるを聴

